

国語科 学習の手引き

1. はじめに

国語科では、いわゆる「読み書き」だけではなく、相手の話を正しく聞き取る「聞く」ことや、自分の考えを言葉で伝える「話す」こと、「書く」こと、そのために必要となる「語彙力(ごいりよく)」といった「言葉に関する知識」などの力をつけていきます。

「話す・聞く」「読む」「書く」「言葉の力」を総合的に身につけ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができるようにしていきましょう。

2. 授業への取り組み方

- (1) 準備物(教科書・ノート・ワーク・ファイル・漢字スキル・資料集)を忘れずに授業に臨みましょう。
- (2) 次の授業内容を確認して、家庭でその文章を読んだり、ワークで関連する問題を解いたりしておくと、授業中の質問に答えやすくなり、話したり書いたりする活動にも参加しやすくなります。
- (3) 小説や説明文などの文章を読むときには、文章の種類によって、その読み方の違いを意識して、心情(小説)や構成(説明文)を捉えるようにしましょう。
- (4) 「阿波っ子タイムズ新聞」を短時間ですみずみまで読んでみましょう。社会や季節の話題にも目を向け、自分の視野を広げることが大切です。

3. 家庭学習のしかた

- (1) 学習した範囲や、次の時間に進む部分の文章をすらすら読めるまで、音読をしましょう(先に読んでおくだけでも授業の理解度が違います。) 読めない字にはふりがなを付けておくと授業のときに便利です。
- (2) 漢字は、自主勉強ノートに繰り返して書いて覚えましょう。同じ漢字をひたすら書くのではなく、読みも併せて書いたり、その漢字を含む様々な熟語を書くと効果的です。
- (3) 時間を計ってワークやプリントの問題を解きましょう。(大問一つにつき10分～15分以内で取り組みましょう)
- (4) 小説、説明文、古文の問題は、教科書以外の文章問題にも積極的に取り組みましょう。
- (5) 様々なジャンルの本を読んで、多くの作者や筆者の考え方に触れましょう。小説だけでなく、図鑑や解説本、説明文なども読んでみましょう。
- (6) 国語のテストでは、漢字や文法は事前に学習して覚えていないと解けない暗記分野です。家庭学習でしっかりと予習・復習しておきましょう。

4. ICT機器利用の例

- (1) 「ミライシード」の問題は、自分の課題に合った学年を選ぶと、漢字や語句の復習が多くできます。また、レベルも「パワーアップ」を選ぶと、発展的な内容に挑戦できます。朝の学習や長期休みに継続して繰り返し取り組み、弱点をなくしましょう。
- (2) 学校で取り組んだものと同じ文章や古典を「NHK for school」の番組で見ると、自分でより深く学ぶことができます。何回でも繰り返し見てみましょう。
 - ・「読み書きのツボ」「おはなしのくにクラシック」
(この2つは5・6年生用ですが、中学生にも十分な内容です。)
 - ・「10minボックス古文・漢文」
 - ・「10minボックス現代文」